

はなりません。そういう意味で、平成２７年度は非常にしっかり指定管理の内容を協議をしてまいりたいというふうに思っております。結果、費用対効果、またサービス面も含めて非常に有用であるということならば、議会に平成２８年度には上げるという段取りになっております。スケジュール的には、平成２８年度中に条例の改正、また公募、指定の議決ということであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

笠原議員。

○１番（笠原幸江君）

これで私の一般質問を終わります。

以上です。ありがとうございました。

○議長（樋口英一君）

以上で、笠原議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

これで終わります。

次に、五十嵐健一郎議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。〔１９番 五十嵐健一郎君登壇〕

○１９番（五十嵐健一郎君）

奴奈川クラブの五十嵐健一郎です。

１、産業振興と人口減少対策について伺います。

移住・定住者をふやす鍵は、地元の人が生き生きと生活している地域にしか人は来ないと言われております。地方創生の模範とされる島根県海士町や、徳島県神山町に移住した人に聞くと、そこの生活がわくわくするからとの答えが返ってくるそうです。

また、５年ぐらい前に視察に行った富士市産業支援センター、いわゆる f - B i z が、月約１４０件の相談に乗り、１０年で７５０件以上の新規事業の立ち上げにかかわり、都会の１万人を超える起業家、事業主と出会い続けてきた小出センター長を思い出しました。そんな中、２０１４年度から中小企業小規模事業者の経営相談に乗るよろず支援拠点が、４７カ所に設置されました。

次に、２年ぐらい前に建設産業常任委員会の市外調査で行った長野県飯田市の地域経済活性化プログラムを思い出しました。非常にきめ細やかな経済波及分析を行い、ＰＤＣＡサイクルにより毎年更新して、今、まさに地方創生、総合戦略に似た事業を進めていました。

そこで糸魚川市においては、いま一度、何をもって経済の活性化を図り、市民ニーズに合った行政サービスを行い、住民満足を高めるのかよく検討しなければならないと感じております。

合併１０年間の地域活性化について分析、総括をし、次の１０年後、２０年後、わくわくする夢

+

の持てる糸魚川市を願って、以下、項目により質問させていただきます。

- (1) 起業・創業支援及び地場産業強化推進事業について。
- (2) ふるさと就職促進事業について。
- (3) 職業訓練施設の充実策について。
- (4) 人材誘導・人づくり・大学連携について。
- (5) 移住定住促進事業について。
- (6) 地域経済活性化プログラムの策定について。
- (7) ふるさと納税の増加策について。

2、子ども一貫教育等の推進について伺います。

- (1) 高校の魅力化と糸魚川留学の促進について。
- (2) 文化・スポーツの振興について。
芸術文化活動への支援について。
生涯スポーツの推進について。

- (3) 糸魚川市子ども夢基金の設置について。

3、フリーゲージトレイン導入について伺います。

- (1) 国・新潟県・富山県・山形県・ＪＲ西日本の動向について。
- (2) 糸魚川市の先手アピールと今後の対応について。

以上で１回目の質問とさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

+

+

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

１番目の１点目につきましては、国の創業支援制度の情報提供、及び市の制度の拡充を引き続き図ってまいります。

地場産業強化につきましては、産業間連携による新たな事業展開を図ってまいります。

２点目につきましては、ＵＪＩターン就職促進のための首都圏での求人説明会の開催をふやしてまいりたいと考えております。

３点目につきましては、旧今井小学校への移転をすることによって、訓練メニューの充実を期待されております。

４点目につきましては、新年度から地域おこし協力隊を採用するとともに、さまざまな大学と連携を図ってまいりたいと考えております。

５点目につきましては、新年度から定住促進課を新設し、新規事業や既存事業の拡充に取り組んでまいりたいと考えております。

６点目につきましては、総合戦略の中で検討してまいります。

７点目につきましては、新年度から寄附者の利便性の向上を図るとともに、お礼品の拡充を検討してまいります。

２番目の子ども一貫教育等の推進についてのご質問につきましては、この後、教育長から答弁い

たしますので、よろしくお願いいたします。

3番目の1点目につきましては、新潟県では北陸新幹線と上越新幹線の間や、新潟市以北でもフリーゲージトレイン導入を挙げており、また、富山県と山形県ではフル規格での整備を求めているところであります。

国とＪＲ西日本では、鉄道・運輸機構と連携をし、耐寒、耐雪等に配慮した車両の技術開発を進めており、平成28年度から試験走行を開始する予定であります。

2点目につきましては課題もあることから、今後、国、県の動向を注視する中で情報収集に努めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もごさいますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

2番目の1点目につきましては、市内高校の魅力度を高めることで、市外からの生徒の増加が期待されます。

市教育委員会は、高校のカリキュラムに直接かかわることはできませんが、魅力を高めるための協力や支援を行ってまいりたいと考えております。

2点目の1つ目につきましては、児童生徒図工美術作品展の開催や、市民会館鑑賞推進事業などを通して活動支援に努めております。

2つ目につきましては、生涯にわたって続けられるスポーツに出会うきっかけをつくるため、各種スポーツ教室や大会の開催、ジュニア団体の育成支援等を推進しております。

3点目につきましては、子ども一貫教育の基本理念においても、夢を描き、夢を育てることを掲げております。基金を設置しての取り組みは考えておりませんが、子供の夢を育てるため、ふるさとを愛する子供の育成や、ジオ学の推進のさらなる充実を図ってまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

先に3番目でございますが、今ほどの市長答弁にありましたように、これは泉田知事を囲む会ということで、その中でフリーゲージの導入など、地元が一枚岩となれば県も動けると。将来的にどう大阪につなぐか。その意味でも新幹線開業がスタートであるということで、将来を見据えた発言をされた。私、行けんかって、その新聞を見させてもらったうれしくて、私にとっては上越、妙高だけでないんだと、糸魚川を注目してるんだということで、よく理解をさせていただきました。

その中で今ほどありましたように国のフリーゲージで、九州新幹線の武雄温泉から長崎間はフリ

ーゲージトレインの技術開発を推進してるということで、平成34年度から可能な限り前倒しするということも国の動きとして出ておりますし、先ほどもありましたように、在来線との乗りかえ利便性を確保する観点で、福井駅の早期活用等についても、この夏までに与党内で検討を行うというすばらしい動きも出てる。それにフリーゲージトレインの技術開発推進などには、整備新幹線建設推進高度化等事業費補助金として24億9,700万円計上されてると。北陸新幹線への導入に向けた、先ほどありましたように耐雪、耐寒化に関する開発も本格化される。これでまた本当に富山、柏崎、新潟、山形、羽越新幹線を含めてかなりの動きも、まだ動いてないですけど、やっぱり糸魚川が上越、妙高に負けないくらいPR。やっぱり泉田知事が一緒になって、この平成27年度、一番大切な時期だと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

加藤産業部長。〔産業部長 加藤政栄君登壇〕

○産業部長（加藤政栄君）

お答えいたします。

今ほど議員がおっしゃられました知事の発言でございますけれども、1月末に糸魚川市で行われました知事を囲む会で、私もその話をお聞きしておりました。そういったことも踏まえまして、今後とも県の担当部局のほうに適宜、状況確認を行ってまいりたいと思いますし、先ほど市長が答弁したとおり情報収集、しっかりと行っていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ情報収集して発信してもらいたいんです。特別委員会はこれで結審しますが、やっぱりこの辺を含めて早くできるように、糸魚川からやっぱりおりていって、在来線に乗りかえて直江津を利用しながら行くような夢の持てる、何年後になるかわかりませんが、早目にできるようにやっていただきたい。

それで今、ことしの10月に敦賀駅構内で試験、変換動作を確認している。そこで180メートルの実験線を用いて行われてるんですね。それで北陸新幹線と湖西、北陸両線で導入を目指して、2016年度から営業路線で走行試験を行う計画を発表してるんですね。もうそこに乗り継いでどうやるか、雪が降ったときにどうするかも含めてかなりやっていると。今年度、2014年度中に北陸ルート仕様の6両編成の試験車両の設計、製作に着手してるんですね。2016年度に北陸新幹線と在来線に、湖西線と北陸本線で試験車両の走行試験を始めるということなんで、その辺かなり進んでいるんですね。その意気込み、市長、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

今、JR西のほうでそのような、議員がおっしゃったような状況で進めております。その状況と

というのは、まずＪＲ西では敦賀開業時、そこから先のなかなか今、大阪延伸がまだルートも決まらない状況、また本線が決まらない状況の中で、大阪と敦賀を結ぶそういう形でのフリーゲージの導入に向けて進めとるということでございまして、この間、知事が話したのは、またさらにその先ということでございますので、その辺はやっぱり情報収集の中でだと思います。

また、実験は実験でそういう状況に応じて、例えば今、上越と北陸新幹線の直行の同盟会でもそれをテーマにしておりますので、そういうところでまた調査を進めて、そういう情報を提供してまいりたいと、こういうふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○１９番（五十嵐健一郎君）

ぜひその辺も含めてＰＲ。糸魚川、北陸新幹線駅も在来線駅も含めていろいろ乗降客をふやす、やっぱり糸魚川が拠点になるような方策、ＰＲに努めていていただきたいなと、こう思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それで次、１番目のほうになりますが、今、国も県もかなりの動きで産業振興、さらには定住促進、糸魚川市もこの前の人口減少対策プランも含めて、いろいろな形で出ております。

それで今、違う市を見てみますと、佐渡がいろいろな形で出てる中で１つ考える。観光に特化するとターゲット別戦略事業に着手して、自然や伝統芸能、食といった顧客のニーズに応じた旅行商品を整えるとともに、祭りなどの伝統芸能を体験できるモニターツアー、糸魚川でもやっとなんですが、やっぱりターゲット別って、それは私、すばらしいと思うんですが、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

基本的には、ジオパーク戦略プランという形になりますけれども、私の段階で交流観光課の戦略と主な事業という形で、毎年まとめているんですけども、その中で、やはりターゲットと戦略という形で、大きくターゲットを分けると中高年齢、それから教育機関、マニア、若者、女性、外国人ということで、それぞれのターゲットに絞って、こういう形でというものは持っておりますけれども、ただ、それをしっかりとした形にまとめたものはないと思ってますし、実際の誘客では、そういうものを考える中で、ツアープランというのは立てられているものと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○１９番（五十嵐健一郎君）

観光も含めて、地域経済活性化も含めて、産業振興も含めて、その中にも入ってますので、一番ターゲットを絞ってもらいたいのは本当に若者、それと若い女性をぜひここに移住してもらいたい

+

んで、ぜひその辺を含めて糸魚川は魅力あるということを感じさせていっていただくような形で。

先ほど言わせていただいた企業が元気になる、ここで企業支援も含めて、先ほど富士市の産業振興の言わせてもらいましたが、この中で本当に糸魚川市では企業支援室、大分取り組んでおるんですが、こうやって県も動いてきてる、国も中小企業庁も動いている中で企業支援室のあり方ですね。やっぱり今、金融機関も含めて、商工会、商工会議所、経済団体とタイアップした中での企業支援室の中で、どう起業化、企業支援をやっていくか。そのあり方が、今、問われると思うんですが、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

当商工農林水産課には企業支援室、それから農業経営支援センター、この2つがございます。私はいずれも農業の支援、それから企業への支援というワンストップサービスの係を、今、自分のポジションの中で仕事をさせてもらってるわけでありまして、いずれも今、お話がありましたように、まだまだやはり市の職員が、お話をしに来てくださるのを待っとるんじゃないかと、やはりもっともって出ていく必要があるんじゃないかなというふうに、かねがね考えております。

特に、農業で言うならば中山間地が多いわけでありまして、出向いて農家の皆さんの顔を見ながらお話を聞くとか、企業についてもご相談がある前に、もっと積極的に訪問するとかいうことが、今、必要なんでないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

そこで合併10年を振り返って、本当に新規事業に結びついて、それを立ち上げた形というのは、10年間でどのぐらいの件数がある、総トータルすると相談件数はどのぐらいあったのか。

それとやっぱりコーディネート型支援、コーディネートできる形の企業支援室はプロだと思うんですが、プロとなる人材養成、育成は、どれだけコーディネート支援できる人がふえたのか。やっぱり人にかかってきてると思うんですが、その辺は農業をちょっと外して、どのぐらい人がふえたのか、その辺も教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今、合併後の実績というお話がございましたけども、今、そこまでのデータを持ち合わせておりませんけども、企業支援室という組織を編成していただきまして、そこに企業支援相談員という専門員も設置させてもらっておるわけでありまして。その専門員がいろんな研修部門に出て係内でまた報告をして、係内のレベルを上げるという体制で取り組んでおるわけでございます。

特に、企業訪問ということになりますと、専門員に偏りがちではありますけども、できるだけ企

業の相談は、係全員が聞くようにということで対応してまいってきております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ちょっと細かいのを聞きますが、その相談員が何名で、10年間でどのぐらいの新規事業を立ち上げたか。件数的な問題も含めて、総トータルの相談も含めて、どのぐらいあったのか、教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

申しわけありませんけども、相談件数の各年度別、また、合併後の総件数というのは、今、掌握しておりません。

○19番（五十嵐健一郎君）

人数。

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

失礼いたしました。企業支援相談員は1名体制であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

1名体制、大分前からですが、ちょっと弱いでないかなと、こう思うんです。何千社あって、企業誘致も含めていくとなれば、ちょっと1人じゃ回っていかない。

足利市なんか職員全員ですよ、1,000人おれば1つの事業所、企業に対して1人つく。それで企業誘致も含めてどっか飛んで行ったり、1人が1企業ですよ、今、1人でやってるんですか。私はそれもおかしいし、本当は商工会、商工会議所も含めて、金融機関も含めて、全体で企業誘致なり、企業支援をやるべきだと思うんですが、その辺からいくと、それでやっぱり務まるんでしょうか。私、企業が元気にならないと糸魚川はだめだと思いますよ、その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

企業の皆さんと情報交換しながら企業の支援に努めていくというのは、職員全体の中でやっていかなければならないと思っております。

先ほど企業相談員は1名という配置だと課長が申し上げましたが、そういう職名では1名でありますけども、先ほど斉藤課長が申し上げましたように職員全体の中で、そういう企業に出向いて企

+

業の話を聞いたりということの体制をとっていく必要があると思っておりますし、まだまだできていない部分は、これからの課題でありますけども、そういう中で、組織全体の中で企業の皆さんの話を聞きながら、いろんな形で支援をしていくという取り組みで、具体的な担当の部署は企業支援室が主となって担当してまいります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

わかりました。相談員と名のつく人は1人で、企業支援室全体でやっていると。私はまだ弱いと思うんですよ。弱いか、行政が本当にここに置く必要があるのか、外部に委託して専門にやっていただくのか、やっぱりその辺が必要になってくると思うんですわ。

行政職員は何年かかわりますし、金融機関もかわるんですが、商工会、商工会議所はかわらない。これは一体的な産業振興のチーム系魚川になると思うんですが、その辺からやっていかないと、私は系魚川、だんだんと企業も少なくなると思うんですが、その辺、先ほどとダブりますが、やっぱりその辺の人ですよ、系魚川を生き返らせるのは。死んだとは言いませんが、生き返らせて、よみがえらせて、角度を変えて企業を元気にしてもらわないと私はだめだと思うんですが、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

企業支援室の職員体制につきましては、今、総務部長からもお話がございました。あわせて、やはり商工会、商工会議所と今まで以上にもっと連携を密にして、連携を密というのは会議の回数もそうですし、情報交換する内容も、もっともっと密度を濃くしていく必要があるのかなと思います。やはりそれぞれの役割分担もしっかり確認する中で、取り組んでいく必要があるんじゃないかなと思っております。

地方創生の中で言われております産官学、金融、労政というふうにありますけども、やはりみんなが一体となって、今の状態をどう分析して取り組むかというふうな場が必要なんだろうなというふうに感じておりましたので、そういう場をどんどんつくっていききたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ、本当に人だと思えますよ。人材、コーディネート支援、企業が誰と誰、何と何を結びつけて、どう成長させるか、元気にさせるかというのは人のコーディネート支援だと思うんです。その人材育成、やっぱり必要だと思います。

そこで長岡市の新年度予算を見ると、昨年も企業創業支援に最大1,000万円の補助で、Uタ

ーンの総合窓口を設けたり、長岡市はまたやっとなんですが、本当に地元の大学などと連携して、若者が何を考え、何に魅力を感じているか深く掘り下げて対策をとりたい。長岡はいろいろな形で出てきとるんですが、ぜひ国の中小企業との関係のよろず支援拠点ですか、県に1カ所、新潟にできておるんですが、その辺のサテライト拠点を開催する。それは糸魚川にもあるのか、上越に行かないとないのか、その辺はいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

サテライト拠点については、当市にはまだないというふうに考えております。

それから今お話のように、各産業間の連携が一番大切だというふうに考えておりますし、先ほどの答弁のまた繰り返しになりますけども、今までの会議以上に内容の密度を濃くすることと、それからやはり市の職員も、もう少し企業を回ってお話を聞くということの大切さを、もう少し認識させたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

今、2014年度から、よろず支援拠点というのができて、サテライト拠点もやっぱり糸魚川にもってきて企業が相談していけるような体制も含めて糸魚川、上越でもいいですし、新潟市ばかり喜んだってだめなんで、ぜひその辺もお願いしたいと思います。

それで、ふるさと就職促進事業で、平成25年度がUターンが21名、平成26年度の12月まで13名というんですが、この2月ぐらいまでにどれだけふえたのか教えてもらいたいのと、医師の修学資金貸与で、その辺も研修医等が平成24年度、1人、平成27年度で4人の予定ということなんですが、それで大丈夫なんでしょうか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

ふるさと就職資金のご利用につきましては、平成24年度が66名、平成25年度では48名になっております。今年度の実績については、今まだ集計中でございますけども、平成27年度の予算に向けましては今までの活用を再度分析をし、今後の移住、定住、人口減少等も踏まえながら、見直しは考えておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

医師のほうの修学資金の部分につきましては、今現在、これまで貸した実績を言いますと、7名の方にお貸ししておりますし、お一人の方につきましては既にご卒業になり、糸魚川総合病院の中でお勤めをいただいております。来年度のほうにつきましては、今現在、研修医という形で、修学資金を借りた方以外も含めまして、今、6名ということでマッチングがなっておりますが、ただ、医師の国家試験を受かりませんと研修医となれませんので、その辺は今後、3月の中で試験の結果が出ますので、その結果によって人数は変動がございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひその辺も含めてやっぱりいい病院で、糸魚川総合病院に少しでも研修医を大勢やっていただきたい、そして受かっていただきたいなと、こう思っておりますし、看護師のほうもかなり、22名ですか、その辺を助成を受けて、医療技術者も市内に27名ということを知っておりますので、この辺もやっぱり進んでということで、ぜひ。

ちょうど人口減少対策の関係で半農半Xも含めて、いろいろな形で出てきとるんですが、福祉関係の人材育成を含めて雇用創出も考えているということなんですが、平成27年度予算の中にも入っているんですが、それは介護関係の人材育成ですが、その辺の雇用創出面ではどういう形で取り組むのか、今後を教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

○市民部長（吉岡正史君）

昨年の5月に日本創成会議が、女性が2040年に半減する市町村が全国で約半分あると、半分になるという大変ショッキングな報告がありました。その際、糸魚川市で、この人口減少対策を考える職員のチームをつくって、現在まで何回か検討してきました。

その中で私も一員になっているわけですが、4つの戦略事業という案を今つくりつつあります。その中の1つの中に、大都市の高齢者が非常にたくさんになって、なかなか介護施設に入れないというような状況が生じてまいります、あるいは生じています。そういった中で、まだまだ課題はたくさんあるという状況ではありますが、いわゆるそういった方々を糸魚川市に来ていただけるような施設の設置の研究をしていこうというような形で、今、進めているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

全体も含めて、やっぱり若い女性も含めて糸魚川に定着していただくためにも、本当に雇用、就業ですよね、それを考えた場合、今ほど吉岡部長よりもありましたが、介護保険計画は、おおさわの里40床とか、小規模、グループホームいろいろありますが、私が提案しておったサービス付き

高齢者住宅も含めて、今、無届け施設、介護ハウスという形も全国的にはあるんで、そういうのもやっぱり研究してもらって、そこに従事してもらう形も必要だと思うんで、その辺の研究も含めて、ぜひお願いしたいと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

○市民部長（吉岡正史君）

高齢者の方々が、いわゆるこれから本当に安心・安全して住めるかということになりますと、非常に厳しい状況があります。ただ、私ども糸魚川市として、やはり進めていくのは法令にきちっと適合して、正規の形でお住まいになれる、安全・安心な施設の設置のほうが適切だと思われまことから、こちらのほうを優先的に検討していきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

介護保険を含めて公的な施設だけでなく民間で法人がやっていける、主導が公共でなくてやっぱり私立とかございますですね、医療法人、介護法人、福祉法人を含めていろいろな形もできるし、今、企業家、株式会社でもいろんな形でやれると。そういう形もぜひ研究して、雇用に結びつくような形にしていきたいと思いますなど、要望でございます。

それで時間がいっぱい迫りますが、先ほどもありましたが、長野県飯田市でやっぱり素晴らしい取り組みやっておりますように、地域経済活性化プログラム、これも大分前にもやってみたところ、先ほど地方創生の総合戦略でやっていくと。ちょうど産業振興も含めていろいろな分野があると思うんですが、それをやっぱり活性化するには、このプログラムづくりを総合戦略と一緒にやってやるべきだと思うんです。その辺を含めて地域経済波及分析、この辺というのはやってられるのかどうか、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

飯田市の地域経済活性化プログラムにつきましては、私も建設産業常任委員会の皆さんに同行させていただいて、視察をさせていただきました。

ここでのポイントは、私なりに感じておりますのは、経済の自立度というものを数値目標を持っているということと、それからプログラムのPDCAサイクルで常に見直しを図っているということ。最後には、先ほどの答弁にもちょっと共通するんですけども、現場主義による地域産業の振興だというこの3点を、私も随行させていただきまして感じてきたところでございます。今ご質問の、じゃあ糸魚川市は、そういうデータの的にどう分析してるんだというところは弱いところがございません。

ただ、これからの地方創生の中におきましては、ビックデータを国が用意したものを地域で分析

して、それを参考にして地域産業を考えていきなさいというふうなこともうたわれておりますので、それが今後、どのように見えるかわかりませんが、平成27年度に向けてつくられていきます地方創生の地域版について、そのような観点を持って、計画の中に反映していきなさいというふう

に思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ。今、地域経済波及分析、これもやっぱりすばらしいですね。地域が自立して、自立度も含めていろいろな観点で金融危機で、先ほどありましたようにビッグデータも含めていろいろな観点から、糸魚川をどうすればいいかというのを分析してから総合戦略を組んでいくんですが、その辺やっぱり総合戦略、どの辺の日程、時期ですね、めどですね、その辺はどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

五十嵐議員ご質問の地域経済分析システムということで、今、地方創生の前段で国が情報支援の中で行っていくというふうにしておりまして、実は、きょうもそのための研修に職員が出向いておりますけれども、国の予定では、これを平成26年度中にとっておりますけれども、若干、おくれ

ぎみではないかなというふうには思っています。

しかしながら、このことは地方創生の2つの柱であります人口ビジョンと、総合戦略のベースになる大事なものでありますので、特に今、この部分は人口ビジョン。人口ビジョンと言いますが、人口だけではありませんで、産業も入り、あるいはまた社会インフラ等も入りますので、これらのビッグデータからの分析という手法になりますので、できるだけ早い段階でこの情報をいただいて、情報を活用した人口ビジョンの策定にというふうには思っておりますが、まだ具体的に平成26年度中というところは明らかにされておりませんが、今ここへきておりますので、若干、おくれ、平成27年度に入る可能性がありますけれども、最終的には総合戦略も秋口ぐらいまでを目標としておりますので、それほど先に延ばせるというものではない。それは国が一番よく承知していることだろうというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひいいものにしてもらって、本当に糸魚川が自立した形、パーセントが上がるように、持続できるような、下がっているのでは困るので、自立が右肩上がりぐらいにいけるように、ぜひ頑張ってください。

先ほどありましたように現場主義、現場がよくなないとだめなんで、ぜひその辺も踏み込んで住民に入っていきながら、企業並びに団体等へ入っていただきたいなど、こう思っておりま

す。

その中で、飯田市の中で職業訓練があるんですが、技能五輪を目指しながらやっぱりやっていけるようなものづくりを含めて、ここに職人を定着できるような形を職業訓練校の中でやっていただきたいなと、こう思ってるんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

糸魚川高等職業訓練所につきましては、今年度事業で旧今井小学校を一部改装して職業訓練校ということで、この4月から新たにスタートしようということで整備をさせてもらっております。

糸魚川職業訓練校におきましては、過去におきまして技能オリンピックに出た方もおられるというふうなこともお聞きしたこともございます。そのような方が出て、糸魚川のものづくりの技術が向上していくことは、非常にすばらしいことだと思っております。

それから新しい職業訓練校におきましては、今までの校舎で手狭であったところができなかった教科、あるいはスペースの問題でなくて、訓練校に来られる市民の皆様のニーズの変化。例えば高齢者の方が仕事を退職して何か趣味をするのに、訓練校でもって学びたいというふうな方が多かったというところもございます。それが最近ですと、趣味というよりも退職をした後、また新たな仕事につくために学びたいんだという方々のニーズも多いというふうに聞いておりますので、そのようなニーズの変化も含めて、新しい職業訓練校のカリキュラム、コースを学校側のほうも、今、検討するというふうに聞いております。

新たな校舎での通われる生徒の皆さんが、生き生きと通っていただけるように、また、今井地区におきまして学校が活用されるわけありますので、今井地区としても、また元気が出ていただけるんじゃないかなというふうに期待しとるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

糸魚川だけでなく、市外、県外からも含めて来ていただけるようなやっぱり訓練校にしていきたいな、こう思っております。

それでふるさと納税のほうでございますが、新発田市では旅行券、温泉宿泊券、それで佐渡も佐渡を訪れるための旅行券。いろいろな形を見るとアクセサリ、これは真珠だとかダイヤモンド、私は糸魚川、ヒスイも含めてやっぱりいろいろな形で出せるような、今度は見直しすることなんです、新潟県も工業製品も含めて種類を拡大すると言っております。ぜひその辺も含めて、いいものにしていただいて、やっぱりふるさと納税を納めたとなれば愛着を持って、8割以上は行ってみたいなということを言ってるんで、その辺も含めていいものを、それで地元が潤う形にしていきたいなと、こう思ってるんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

平成26年度におきましてもふるさと納税、大変大勢の方からご寄附をいただき、今、1,200万円を超える金額になっております。

そこで制度が始まって7年目を迎えるものですから、この辺で少しお礼のあり方も見直してみようということで、先ほど市長が答弁したとおりであります。

議員からは、今、ヒスイ等の特産品をお礼品に使ったらどうかというご提案であります。寄附をいただいた中では100万円を超えるような高額な方も、この中にはいらっしゃいます。金額に応じてなんですけれども、国の指導では、お礼品があまり華美にならないようにという通知も出ておりますので。かといって、またいいヒスイをやっぱりお礼にしないと、あまりよくない品をヒスイだよというふうに贈ることが、またマイナスイメージになってみかんのかなというふうに考えておりますので、特に、地場産品を意識したもので、少し充実をしたいというのが、新年度、予定してるところでありまして、ご意見も含めまして少しお礼の中身。

それから、お礼の中身もそうなんですけれども、もっと寄附していただける方から利便性、もっと簡単に寄附できるような仕組みにしてよという声もいただいておりますので、今、インターネットでの寄附申し込みもできるシステム等、今、導入したいというふうに思っております、寄附をいただく方の利便性と、お礼品の充実については、新年度の中で、できるだけ早期に実施をしていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひお願いしたいと思いますし、子ども一貫教育の中で子ども夢基金、これは燕市がやって9,626万円が寄附された。やっぱり全国から集まって、相撲のまち糸魚川を含めて文化面、文化協会、体育協会を含めて、全体で子供を育てる場としていただきたい。これは市が主導ではなく、それは民間、企業等も含めてタイアップしていただけるような、子供に夢を持たせるような、やっぱり日本一の教育なんですから、ぜひその辺、お願いしたいと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

先ほどもお答えしましたが、子ども一貫教育の基本理念の中に、夢を描き、夢を育てるという言葉があります。成長の中でいろいろな体験を通しながら、夢を育てるということも大事であろうし、これからそういう夢を逆に見させること、そういう可能性もこれらをするによって可能になってくるのかな、そういうふうなことも考えております。少し研究させていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

研究ではなく現場主義ですから、ぜひ行動に移していただきたいなと、こう思っております。

それと相撲みたいにやっぱり全国から来ていただける糸魚川留学も含めて、スポーツ関係だけでなく文化。いろいろ先ほどから文化、歴史、伝統も含めて、国の文化財も含めて、そういうのを学んでみたいと糸魚川に来たくなるような体制づくり。住宅もいろいろな形で整備も必要でしょうけど、寮もありますでしょうけども、一番やっぱりそこが必要ではないかと、こう思っております。

それで島根県海士町ですが、この中で島留学で中学2年生とか、中学生、高校生を対象にヒトツナギと言って、隠岐島前高校生が企画、運営。島内外から中・高校生をつなぐ4泊5日の旅、やっぱりこれが素晴らしいんですね。そのつながりで自分たち高校生が企画立案して、全部、島を案内したり、そういうガイドも含めてやっている。この辺が、やっぱり素晴らしいと思うんですね。

それを糸魚川バージョンに置きかえて、先ほど保坂議員からもありましたように白嶺改革、糸高改革、海洋高校は頑張ってますんで3つの高校が頑張れる。全国、世界からも来れるような高校にしていきたいと思うんですが、この辺も含めて。

授業の中に夢探求っていうのがあるんですね、授業、夢探求。それで公立で塾を開いていって夢ゼミ、夢を追いかけていて、そこにやっぱり高校生が、留学生が何人でしたかね、寮も建てながら全部海洋高校と一緒に。素晴らしいんですが、その辺も含めてやっぱり高校改革に乗り出す、高校の魅力化に取り組む必要があると思うんですが、その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

お答えいたします。

新潟県教育委員会の高等学校課のほうでは、今、魅力ある高校づくりプロジェクトというふうなことを進めております。先般、知事のお話の中でも、新潟に来るとこういう教育が受けられる、そういう夢のある高校に、これから変えていきたいんだという話もありました。

また今、少子化、人口減少社会という中で県のほうも、中長期的な視野から高校再編整備事業計画を進めるようになっていくというふう聞いています。本当に今、オンリーワンの高校をつくるチャンスだなということで、海洋高校のスーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業、素晴らしいなと思ってます。同じように糸魚川高校、白嶺高校でも魅力ある高校を発信していくということで、私たちにもできることがあればどんどん協力していきたい。糸魚川でこそできる教育、その中に小・中学校もまぜていただいて、ともに学ぶ学校づくりをしたいなというふうに思っております。具体的なものはありませんが、これから夢を持ちながら、私たちも取り組んでいきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○ 19番（五十嵐健一郎君）

夢に終わらんようにぜひ即行動、スピードの時代なんで、新幹線時代なんで、ぜひそれをお願いしたいと思いますし、同窓会、後援会、OB会、今の地域住民、小・中学校を含めて、ぜひ一丸となってチーム系魚川だと思うんです。高校改革、高校魅力化に向けて頑張ってください。

それともう1点、スポーツ関係で、東京五輪・パラリンピックの合宿誘致、2020年、手を挙げているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹之内生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 竹之内 豊君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（竹之内 豊君）

先日、県知事が記者会見で、新潟県としての取り組みということで発表しました。既に県内の市町村の中には、地域的な世界とのつながりが既にある市町村でありますとか、そういったところで具体的に競技名を挙げて希望を出しておられる市町村もございます。

当市の場合には、まずはそういったつながりもございませんが、事前合宿の会場として使用できる見込みのあるものといましては陸上競技場、それからあと民間の施設であります。今度はゴルフが種目に入るといっておりますので、民間の施設としてはゴルフ場があり、ここら辺を活用して、どのような競技を誘致できるかということで、今、選定といいますか、研究をしております。ただ、意欲はありますという手挙げは、させていただいております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○ 19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ誘致に向けて頑張ってくださいのと、パラリンピックも含めて、今、新潟でスペシャルオリンピックも来年2月に、南魚沼ですか、開催されますし、冬季も含めていろいろな形で、障害者も含めたスポーツも必要だと思うんですが、やっていただきたい。それも探っていただきたいと思いますし、十日町が県内初でスポーツコミッション、観光、医療も含めて、健康も含めた中でコミッション、いろいろな形で体験させる取り組みもやっています。

終わりました。ありがとうございました。

○議長（樋口英一君）

以上で、五十嵐議員の質問が終わりました。

3時5分まで休憩いたします。

午後2時50分 休憩

午後3時05分 開議

○議長（樋口英一君）